

第 44 回技術士の夕べ

『意見交換会 : 部会員の福島支援活動の経験から、住民目線のリスク・コミュニケーションを考える』

- 専門家がリスク・コミュニケーションを行う際の基本姿勢として、まず、これをお読みください。
『**専門家、行政関係者の皆さん、今こそ「リスク・コミュニケーション」を**』 首相官邸災害対策頁「原子力災害専門家グループ」第四十三回 (H25/5/31)コメント <http://www.kantei.go.jp/saigai/senmonka.html>
- 当部会の福島支援活動
H25 年度末までの部会の活動を総括して、掲載しております。
http://www.engineer.or.jp/c_dpt/nucrad/topics/002/002464.html
- 一般向け放射線Q&Aに関して
同種の取り組みが各学協会で行われましたが、**日本保健物理学会の専門家が答える「暮らしの放射線 Q&A」** (活動委員会委員長 伴信彦氏、相談役 下道國氏(元 藤田保健衛生大学)他)が参考になります。
書籍化後、現在はサイト閉鎖しておりますが、国会図書館アーカイブで閲覧できます。
<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8699165/radi-info.com/>
- 福島の人々の視点を知らるために参考となるもの
「**福島民報**」の各種連載では、福島で暮らす人々が何を思い、悩み、歯がゆく思っているのか? そして、未来に向けてどんな頑張りをしているのか? それを妨げる偏見や障害は何か? を地元目線で、我々が驚くほどの専門解説も交えながら、人々の努力の軌跡を綴っています。 <http://www.minpo.jp/>
膨大なアーカイブが公開されていますが、書籍化された「**ベクレルの嘆き 放射線との戦い**」は専門性と地元目線のバランスが絶妙です。 http://www.minpo.jp/publish/fukushima_and_genpatsu.php
また、「放射線・放射性物質 Q&A」<http://www.minpo.jp/pub/topics/jishin2011/QandA/> (回答者長崎大高村昇氏他)は、より福島に特化した QA の内容と、その回答方法に関して参考になります。
- 専門家の関わり方 住民主体の対話プロセスの在り方等に関して参考となるもの
チェルノブイリの経験を反映した取り組みとして、多くの施策の参考にされ、かつ地元の有識者の支持も獲得している参考書籍です。原子力・放射線部門の技術士は必読です。
・ICRP Publication 111 「**原子力事故または放射線緊急事態後の長期汚染地域に居住する人々の防護に対する委員会勧告の適用**」
・**福島ダイアログセミナー**の各回のプログラム及び結論と勧告 <http://icrp-tsushin.jp/dialogue.html>
・ETHOS IN FUKUSHIMA <http://ethos-fukushima.blogspot.ca/>
- 今回の講師 伴 信彦 氏他3名のインタビューをまとめた成果 (原子力と地域住民のリスクコミュニケーションにおける人文・社会・医科学による学際的研究(研究代表:中川恵一))
・「**放射線をいかに語るか 被災地域における専門家の模索**」が中川先生のサイトから入手できます。
http://www.u-tokyo-rad.jp/staff/nakagawa_activity_fukushima.html

以 上